

1面 日本YWCA会長メッセージ

2~4面 第32回全国会員総会スペシャル

6~7面 平和の伝え方

The Young Women's Christian Association

YWCA

(第32総会期主題聖句) 平和を実現する人々は幸いである

(日本YWCAの使命(ミッション)) イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する

- (日本YWCAのビジョン) 地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。(1)平和憲法が守られ、核も暴力もない社会

2

FEBRUARY 2017

No.736

www.ywca.or.jp

4 YWCAの3つの強み



第32総会期日本YWCA会長

藤谷佐斗子 Satoko Fujitani

世界的にも日本国内においても予測困難な社会の荒波が予想される第32総会期がスタートしました。この厳しい情勢の中でYWCAは社会の変容を冷静に見つつ、ビジョンの達

成をめざして着実な柔軟な歩みを進めていきます。これからの社会変革においては、まずは目的を共にする、他団体との連携が必然となります。YWCAの4つの強みを活かし、全国各地においても、他団体や仲間との連携を広げていきましょう。

今総会期からは、地域YWCAが同じテーマを掲げ、地域を超えて連携するという新しい試みが始まりま

地球という大きなフィールドの中で、地域から世界までつながるYWCAという縦軸、そして人と

一人ひとりを愛おしむキリスト教基盤というチカラ 私たちはキリスト教を基盤にした団体です。イエス・キリストの生き方

アデレードだより

オーストラリアのアデレードYWCAで若い女性のリーダーシップを学ぶ 藤原聖帆さんからの連載レター。



「エマ・ワトソン」と聞いて皆さんは最初に何をイメージしますか? 多くの方が「ハリポッター」に登場するハーマイオニーではないでしょうか。私もハリポッターが好き

「ジェンダー平等」といった英語由来の概念や言葉は定着しにくいかもしれませぬ。でも、その前に、私たちは

- 賛助員 池上幸子 古西正子 渡川敬子 鈴木 実生律子 竹内わか子 乾麻子 村松幸子 大里喜美子 川西薫 宮内貞子 田中美紗子 吉田麻都 阪本和子 清水暢乃 J・E・ランドセル ランデスハル 西島繁 キッシュユ陽子 生田教会カネの会

- 三井弘子 松下慎子 熊江雅子 毛利亮子 渡辺文字 棚本和津 中村紀子 板橋俊子 阪本和子 国中正人 篠原洋子 野々村耀 川上哲 手島千景 大西しげ子

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室 Tel. 03-3292-6121 Fax.03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp





Yのポーズで動画を撮影

# 第32回 全国会員総会ニュース

4年に1度の全国会員総会が、昨年11月18日(金)20日(日)、東京YWCA会館カフマンホールにて177名の参加をもって開催。開会にあたり侯野尚子第31総会期会長から「この4年間は右傾化の波に抗い、憲法を守ることの大切さを訴える活動を続けた。また、全国の仲間と連携して東日本大震災・熊本地震の被災者支援を行った」など、第31総会期を振り返る基調報告がありました。



侯野尚子会長の開会でスタート

## ユース参加者による日本YWCAプログラム報告

この総会で印象的だったのは、日本YWCAのプログラムに参加した多くの高校生、大学生による報告です。「ひろしまを考える旅」「南京を考える旅」「日韓ユースカンファレンス」では、プログラムを通して、世界の仲間に出会い、歴史を学び、現在の課題を共有して、ともに平和を築いていきたいとの心強い報告がありました。



日本YWCA報告では、プログラムに参加したユースが登壇

また、「ふくしまから考える新しいエネルギーPart2」に参加した福島の高校生による報告では「自然エネルギー、特にバイオマス、地熱発電、小型風力発電の学習が役にたった」等、次世代を担う若者達の意識の高さに希望を見出すことができました。



プログラムを通して得た抱負を語るユース参加者

## 持続可能な被災者支援を確認

東日本大震災被災者支援については、5



「ふくしまから考える新しいエネルギーPart2」に参加した福島県の高校生

年半が経過し震災当初より寄付金が集まりにくい状況がふまえて、今後は身の丈に合った支援を行うことを確認しました。具体的には、リフレッシュ(保養)プログラムを地域YWCAが連携協力して行うこと、セカンドハウスの継続、福島に暮らす人々の支援拠点となる「カーロふくしま」の3本柱で今後15年間の継続的支援を目指します。

## 地域YWCAを主体とした活動の展開

第31総会期中、日本YWCA運営委員理事会、総幹事会は、時には合同会議を開いて話し合いを重ね、地域YWCAと日本YWCAの機能と役割分担を再確認しました。

・地域YWCA  
・日本YWCA  
社会貢献活動を推進する拠点

これを踏まえて、第32総会期では、地域YWCAが主体となつて展開する社会貢献活動に、日本YWCAは資金提供と広報、それを担う会員・職員の研修に貢献するシステム

- ①ユースのための憲法カフェ (東京・横浜YWCA)
- ②会員のリーダーシップ養成を考える 三市Y合同合宿 (京都・神戸・大阪YWCA)
- ③全国ユーススキルアップ研修・交流プログラム (熊本・大阪・長崎・福岡・沖縄・京都・神戸YWCA)
- ④Girls Rock Day Camp (横浜・熊本・福岡・広島・甲府YWCA)
- ⑤沖縄とわたしたち・平和とあなたinかながわ (横浜・湘南・平塚YWCA)



「地域YWCAを主体とした活動の展開」の可否はチップによる投票で決定



投票結果に湧く会場

## YWCA平和の守り人

地域のピースマップを作ろう (函館・広島・札幌YWCA)

## 地域の魅力あふれる昼食会と販売ブース

全国から集まった仲間と交わりながら地域YWCA手作りのお菓子を楽しむ昼食会は、タイトなスケジュールの中のホットとするひとときでした。全国幹事会が作成したYWCAのPR動画を見て、大いに盛り上がり、最後に、参加者全員でYのポーズをとって動画と写真を撮りました。各地域の特産品や手作りのケーキ、クッキーの販売、活動の報告のブースには人の輪ができて、久しぶりの再会や新しい出会いに、楽しい話の花が咲きました。

## 会則改正

日本YWCA会則改正案については、2箇所の改正案が賛成多数により承認されました。

- ・会則第13条(3) 20名以上の会員を有する
- ↓10名以上に改正
- ・会則第16条(3) 20名以上の会員名簿。但し学校YWCAの場合は10名以上の会員の会員名簿 ↓10名以上の会員名簿に改正

## 主題聖句・使命(Mission)・ビジョン

- 主題聖句 (主題から主題聖句に改める)
  - ・「平和を実現する人々は幸いである」
  - マタイによる福音書5章9節
- 使命(Mission) 変更なし
  - ・イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
  - ・世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む
- ビジョン
  - 地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。
  - (1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
  - (2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
  - (3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会

## 日曜礼拝

(4) 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

「わたしがそうなのです」。これは、総会の最終日、日曜礼拝の西原廉太司祭によるメッセージの表題です。ヨハネによる福音書のこの言葉には、奪われていた人間の尊厳を回復するという意味が含まれています。このメッセージを通して、勇気を振り絞らなければ「わたしがそうなのです」と言えない人の声に耳を傾け、共に生きる社会を目指さなければならないと改めて考えさせられました。メッセージの要約を次号で掲載する予定です。

日本YWCA副会長(前運営委員) 手島千景

## 第32総会期 会長・副会長・書記・運営委員

代議員による選挙結果は次の通りです。これから4年間よろしくお願いたします。

会長	藤谷佐斗子 (東京)	吉田亜希 (札幌)
副会長	手島千景 (東京)	藤原玲子 (静岡)
書記	Aブロック 會津昭代 (函館)	清塚典子 (横浜)
運営委員	Bブロック 吉田夏子 (東京)	天川啓子 (神戸)
	梅澤昌子 (神戸)	梅澤昌子 (神戸)
	雀部真理 (大阪)	樋口清香 (福岡)
	樋口春菜 (福岡)	松原恵美子 (大阪)

※カッコ内は所属YWCA名





日本YWCA総幹事  
尾崎裕美子  
Yumiko Ozaki

profile

大学時代は社会福祉を専攻。広く福祉に関わる仕事に就きたいとの思いから東京YWCAに就職。地域センター、ボランティアビューロー、専門学校、総務等を担当。2005年度より東京YWCA総幹事を務め、2016年3月に退職。

昨年10月から日本YWCA幹事として皆さんと一緒に実務に携わってまいりました。その経験を踏まえて日本YWCA総幹事に就任したこの年始に、2つのことを感じています。

1つは、原点に立ち戻りつつ進むことの大切さです。たとえばYWCA運動の象徴でもある「核」否定の思想に立つのは、なぜ「核」とカッコでくくるのでしょうか。「核」に代表される現代文明、豊かさを享受する自分自身のあり方への問いを含むYWCAが深めてきた思想が、今、この時代に

### 日本YWCA総幹事に就任して 原点に立ち戻って ダイナミックに進もう

日本YWCA総幹事は、本年1月1日をもって西原美香子が退任し、尾崎裕美子が就任した。新総幹事として日本YWCA職員に語った年始のメッセージ(一部)を掲載する。

どのような意味をもつか。自分にとってそれが何であるかを問うことは、特に重要だと思います。

YWCAは生きて働くもの。しかし、その中には、生きて働き成長・拡大していくものと、揺るがずに変わらないものがあります。何を受け入れ、何を手放すか。先の公益法人制度改革で私たちは問われてきました。新総会期を迎え、改めて「当たり前」と捉えていることを言語化して新しい仲間と共有していきたいと思えます。「当たり前」とは、委員会運営の基本、運営委員や理事の役割かもしれないし、自分の活動が日本YWCAビジョンにどうつながるのかわかることかもしれない。31総会期には組織を問い直し、地域YWCA、日本YWCAの役割を明確にしました。新総会期は、それに基づいた活動を軌道に乗せ、具体化していく時期です。基本・原点を確認しつつ、ダイナミックに進む年にしたいと思っています。

もう1つは、YWCAは人を育て、人とともに働く組織であるということです。東京YWCAに就職して2年目の頃、困難に陥り辞めようと考えたことがあります。その思いを東京YWCA総幹事(当時)だった浦田

組織である以上、メンバー構成が変わっても活動は続きます。でも、あなたがいる組織とない組織は違います。違う味のパンが焼きあがるのです。神様のご計画の中で、おの役割が与えられています。一人が欠けてもダメなのです。組織は変わるけれど、あなたという人の代わりはないのです。

YWCAがめざすものを確認しつつ、かけがえのない日本YWCAというチームで一つひとつの役割を誠実に担っていきましょう。

「少なくとも私には、小学校以来18年間の学校教育よりも、東京YWCAの職員であった14年間に受けた教育のほうが大きかった。数ある中でも特に、自分はバターだぞと自信のある人も、自分はメリケン粉にすぎないと気の弱い人も、実は砂糖やイーストや水や熱と一緒に働いて初めてパンになるのだとわかってもらった点において。」(会員が綴る九十年 東京YWCA 90周年記念誌より)

伸子さんに伝えたところ、こんな言葉がかけられました。「あなたという人が必要なのです」。その言葉に「ここには自分を見ていてくれる人がいるんだ」と強く励まされたものでした。浦田さんは誰に対しても「あなたは大切な存在」ということを伝え続けた方でした。そして、「YWCAはみんなの力があつてこそ成り立つことを忘れてはいけない」ということも繰り返し言われていました。

かつて職員であった塩野幸子さんがこんなことを書かれています。「少なくとも私には、小学校以来18年間の学校教育よりも、東京YWCAの職員であった14年間に受けた教育のほうが大きかった。数ある中でも特に、自分はバターだぞと自信のある人も、自分はメリケン粉にすぎないと気の弱い人も、実は砂糖やイーストや水や熱と一緒に働いて初めてパンになるのだとわかってもらった点において。」(会員が綴る九十年 東京YWCA 90周年記念誌より)

## Y's Wonderful Women賞

### 授賞式



受賞者33名のうち14名が出席していただきました



最も遠方から出席された古西正子さん



最高齢受賞者の渡辺寿美子さん

## YWCAに刻まれた 先輩方の足跡を覚えて

### 長年の歩みを覚えて 感謝の気持ちを表す賞

会員総会最終日、閉会を前にした最後の重要なプログラムがY's Wonderful Women賞の感謝状贈呈式です。全国のYWCAから前回に比べて2倍近くになる、33名が受賞されました。年齢は80代が26名、90代が7名でした。

この賞の趣旨は、後に続く私たちにとって輝ける先輩である方々の足跡を覚え、感謝の気持ちを表すことにあります。たとえば、情熱を絶やすことなく各地域YWCAの歴史と共に歩んでこられた方、会長や理事長などの重責を担われた方、社会のさまざまな問題に心を寄せ、献身的に奉仕してこられた方、困難な時代をYWCAとともに生き抜いていらした方、特技を生かして地道な活動を継続してこられた方、率先してYWCAの理念に実践に貢献された方などです。どの受賞者も、推薦者からの言葉には、その方に対する尊敬と感謝の想いがあふれていました。

贈呈式には14名の受賞者が出席しました。それぞれ素敵にドレスアップされ、にこやかにステージに並んでお

れる姿に、YWCAで歩んで来られた誇りを感じました。一人ひとりに感謝の言葉が印字された楯と花束が贈られた後、受賞者を代表して最も遠方から駆けつけてくださった函館YWCAの古西正子さんと、最高齢でいらっしゃる東京YWCAの渡辺寿美子さんがメッセージを述べられました。

### 一つひとつの積み重ねが 歳月を経て人間性をつくる

古西さんは函館YWCA67年の歴史とともに歩み続けてこられた方で、一時期は会長として活動を支えられました。バザーではいつも五目御飯を担当され、その味には定評があります。「『核』否定の思想に立つ」というYWCAの理念をご自分の歩みの中心に据え、この言葉のもつ意味の深さ、重要さをあらためて私たちに強調されました。

最高齢の渡辺さんは、94歳とは思えない凛とした佇まい、足取りも軽やかで、18歳から長年にわたってYWCAの会員として、その優れた知性と理性を発揮して活動を担って来られました。

「社会の中の深刻な問題に関わり続けるためには、楽しいこともなければだめ」という賢者の知恵を、明るいお声で語っていただきました。

YWCAの歩みの中で経験されたさまざまな事柄に対する心のあり方、対処の仕方の一つひとつの積み重ねによって、長い年月の間に人間性がつくられるのです。それは決して一朝一夕にできるものではないという人生の真実を、受賞者の皆さんが身をもって示してくださいました。皆さんのご健康をお祈りし、これからもYWCAの活動とともに、充実した日々をお過ごしくださいますようお願いいたします。

編集部会 遠藤真理

### Y's Wonderful Women賞

#### 受賞記念冊子

#### 先輩方の思いを綴った一冊

第3回Y's Wonderful Women賞の受賞者を覚えて記念冊子を発行します。受賞者から後進へのメッセージと推薦者の言葉を載せた記念の一冊です。購入をご希望の方は日本YWCAまで問い合わせを。

## 種

わたしの魂は必ず命を得  
子孫は神に任せ  
主のことを来るべき代に語り伝え  
成し遂げてくださった恵みの御業を  
民の末に告げ知らせるでしょう。

(詩編22編31-32節)

『どうぞのいす』(大日本図書)は、私の大好きな絵本である。うさぎが小さなイスを作り、「どうぞのいす」という立札と共に大きな木の下に置いた。次々に動物がやって来てそのイスでひと休みしては、「お札に」と木の実やハチミツを置いていく。次にくる動物はその「お札」に満たされて、別の「お札」を置く。「どうぞのいす」は、思いをつなぐ道具であり、居心地のよい場所でもある。

YWCAにも「どうぞのいす」があるように思う。誰かのために何かしたいという人たちが集い、多くの会員が、YWCAの活動の場で育てられたことを感謝し、今度は自分ができることを次へと伝えていこうとしている。私自身もまた、この「どうぞのいす」に助けられた。ある時は備えられた「記録」という資料から、こんな場合にどうすればよいか示唆を得、またある時には思いを実行に移していくマネジメントの手法も教わった。考えの違いから理解し合うことの難しさに直面した時には、「どうぞのいす」の温もりが、つながることの喜びへと気持ちを切り替えさせてくれたように思う。

今を生きる私たちが、神さまから与えられた時間には限りがある。しかしその時間の中で、全国のYWCAが、未来の子どもたちが笑顔となることを思い浮かべながら、恵みのみ業を誠実に繋いでいく「場」であり続けている。

日本YWCA幹事(前総幹事)  
西原美香子



オープンプログラム報告

未来に  
平和を

伝えるために

絵本のメッセージ性を  
肉声で表現する

カフマンホールに塚本やすしさんの大きな声が響きわたる。絵のタッチと同様に豪快で気さくな塚本さんが、食育絵本『しんでくれた』（俊成出版社）と刺激的なタイトルの『うんこ』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）を朗読すると、会場の「お姉さま方」は思わず破顔した。参加した子どもも来場者も興味津々で聞いている。次に、塚本さんのライフワークでもある、子どもを対象にした読み聞かせの様子を再現。客席にお寿司の絵を見せてネタを当てさせるクイズ形式の絵本『このすしなあに』（ポプラ社）をユーモアたっぷりに読み聞かせた。

全国会員総会に先立つオープンプログラムでは、絵本作家の塚本やすしさんを迎えたトークライブ「絵本をとおして伝える平和」と、神戸YWCA平和活動部による「憲法出前授業のすすめ」を開催。2つのプログラムを紹介ながら「平和の伝え方」について共に考えてみたい。



閉会後にはサイン会が行われた

続いて、平和について考えさせる絵本を3冊紹介。塚本さんの母親が体験した東京大空襲を題材にした『せんそう』（東



「このすしなあに？」とパワフルに問いかける塚本さん（左）

京書籍。突然の大空襲で火の海となった東京の街を逃げまどう「わたし（お母さん）」とその母親の姿を描いた話だ。東京大空襲を指揮した米軍軍人カーチス・ルメイに日本政府が勲章を与えたことを語る淡々とした口調に、塚本さんの静かな怒りを感じた。次に『いのりの石ーヒロシマ・平和へのいのり』（フレール館）。広島原爆を体験した市電の敷石が、平和のシンボル「ひろしま・折りの石」として世界各国に贈られたという実話に基づく絵本だ。3冊目は『わたしの「やめて」』（朝日新聞出版）。飛び入りで参加した編集者藤代勇人さんがこの絵本の誕生秘話を披露。昨夏、「戦争」法案をめぐって自分たちにも何かできないか、と模索していた塚本さんと藤代さんが、「自由と平和のた



東京大空襲を描いた『せんそう』を淡々と読み聞かせる

肉声で表現することによって子どもにも大人にも感動を与える読み聞かせの魅力とを再認識した。

自分に引き寄せて  
考えてもらう

第2部は神戸YWCA平和活動部のメンバー（川辺比呂子さん、斎藤明子さん、鶴崎祥子さん）による「憲法出前授業のすすめ」である。出前授業を始めたきつ

かけは、2012年に自民党が発表した憲法改正草案の復古調の内容に強い危機感を抱いたからだ。政治に無関心な人特に若者に知ってもらいたいと、伝を頼りに大学のゼミや専門学校、私立高校などに出向いて憲法の出前ワークショップを行い、回数を重ねてきた。難解でとっつきにくいイメージのある憲法を、自分たちの生活に引き寄せて考えてもらうために、導入部分では生徒の興味関心のあるテーマを取り上げることに工夫を凝らす。今回の授業体験では「憲法を守らなければならぬのは誰？」というクイズを実施した。憲法を守る義務があるのは私人や企業でなく、公権力の側であることは憲法の基本のきだが、意外と知らない人がある。「各個人」などと誤答すると、拍手木が鳴り、立憲主義とは何かを分かりやすく描いた紙芝居のはじまり、はじまり。「王様を縛るきまりが憲法」なのだ確認したところで、憲法尊重擁護義務について規定する第99条の条文を読み、改めて最初のクイズの答えを考え直す。実際の出前授業では、この後に現行憲法と改憲草案を比較し、問題点について考えるグループワークを行っている。



「憲法」を身近な表現で説明

相手の目線に立って  
押し付けずに伝える

2つのオープンプログラムを通して、戦争を体験した世代だけでなく、戦後生ま

れた私たちが、将来の世代に平和を伝えるために何が必要なのか、多くのヒントを得た。共通するのは「いま伝えなければ」という情熱だ。塚本さんが戦争を題材にした絵本を作るようになったきっかけは、「やすし、日本も戦争していたんだよ」と語ってくれたお母さんが亡くなられたか

らだと後で何った。空襲で一面の焼け野原となった中を母が生き抜いて、自分が生まれた。母の記憶を絵本という形で次の世代に伝えたいという思い。そして「憲法が知らないうちに変わってしまった」にしたいくない！という神戸YWCA平和活動部の皆さんの危機感。そして絵や写真、言葉、またワークショップなどを通してそれぞれの賜物を生かした平和への「伝え方」を学んだ。伝える際に気をつけたいのが、読み聞かせでもワークショップでも、伝える「相手の目線に立つ」こと。そして決して「こちらの考えを押しつけない」ことだ。先輩方の戦争体験や平和への思いをまとめて冊子にしたり、戦争の記憶を視覚化するピスマップ作りに取り組むYWCAもある。私たち一人ひとりが平和の語り部となり、未来に伝えていきたい。

日本YWCA副会長（前運営委員）  
吉田亜希

※明日の自由を守る若手弁護士の会が作成した紙芝居



神戸YWCA平和活動部のメンバーによる「憲法出前授業」

